

千鳥ヶ淵環境再生プラン
(概要版 案)

平成25年3月

千鳥ヶ淵における環境再生に関する検討会

2. 千鳥ヶ淵周辺の今と昔

千鳥ヶ淵は、もともとは、江戸城が築かれたのに伴って、小さな川をせき止めたため池としてつくられ、その後、江戸城を囲む濠の一部となりました。

濠の堤、石垣、門などは今もその姿を留めていますが、濠の周辺は、時代とともに姿を変え、例えば、徳川御三卿の田安家、清水家の屋敷があった北の丸は、その後近衛連隊駐屯地となり、今は、北の丸公園として公開されています。

また、この地域一帯は、明治以降サクラの名所として親しまれています。



〔浮世絵に描かれた濠・堤の様子〕
「糺町一丁目山王祭ねり込み」

現在の半蔵濠付近での山王祭りを描いたもの。

濠を描いた浮世絵では、堤塘斜面には草地にマツなどが見られる。

出典：歌川広重「名所江戸百景」(安政3-5
(1856-1858)年)(国立国会図書館所蔵)



〔航空写真で見た千鳥ヶ淵周辺〕
昭和22～23(1947～1948)年撮影

現在の北の丸地区には、近衛師団兵営地跡が残され、外周には樹林がみられる。

出典：国土地理院撮影の空中写真

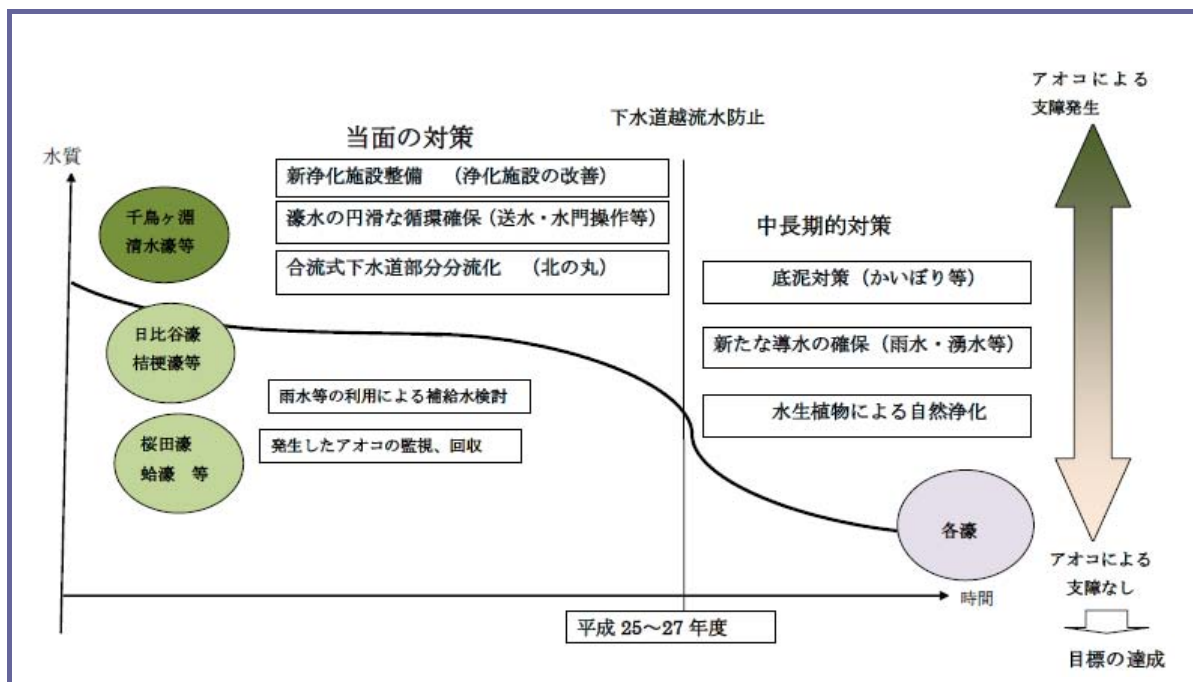
水質

千鳥ヶ淵の水質は、江戸時代には飲料や生活用水として利用されるほど良好でしたが、昭和 40 年以降、玉川上水からの水の供給がなくなったことや、下水道からの雨天時の越流などにより水質の悪化が進んでいます。

平成 7 年からは、濠水浄化施設により一定の効果は得られましたが、千鳥ヶ淵ではアオコの大量発生は解消には至っていません。

今後、平成 27 年度までには下水道からの雨天時の越流は防止される見込みで、環境省も新しい濠水浄化施設の整備などの対策を進めています。

これにより今後、アオコの大量発生は解消される見込みですが、環境省ではその後も水質の安定化と水環境の再生に向けて中長期的な取組を進めていく予定です。



〔皇居外苑濠水質改善計画（平成 22 年 3 月）による施策効果イメージ〕

生物にとっての環境

千鳥ヶ淵周辺は、豊かな自然のある皇居の森に隣り合っています。また、牛ヶ淵には、昔からこの地域に自生していた可能性のあるヘイケボタルなど様々な種類の生物がいます。また、千鳥ヶ淵の石垣には天然記念物のヒカリゴケが生育しています。これらの生物は、石垣など史跡として守られてきた環境に生きてきたという面もあります。

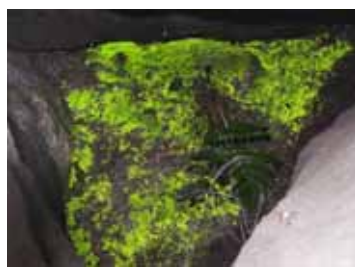
一方、現在の千鳥ヶ淵の濠の中には、限られた種類の生物しかおらず、生物にとって豊かな環境とはいえない状況です。

水辺については、牛ヶ淵などの貴重な生物を守りながら、千鳥ヶ淵などの周囲の環境を改善し、森や草地については、皇居の森と一体となった環境作りが今後の課題といえます。

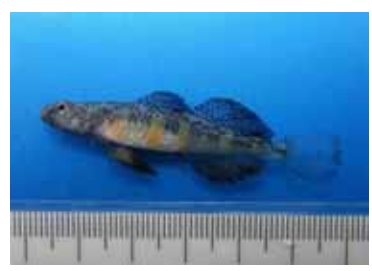
〔千鳥ヶ淵、牛ヶ淵、北の丸などに生息・生育する生き物〕



ヘイケボタル



ヒカリゴケ



ジュズカケハゼ



ヒヨドリ



オオシオカラトンボ



ベニイトトンボ

景観

千鳥ヶ淵周辺は、江戸や明治の頃から景勝の地として知られていました。今は、皇居の森と一体となった水と緑の景観、濠、石垣、門などの江戸城以来の歴史的な景観に特徴があります。

また、千鳥ヶ淵のサクラは、首都圏でも有数のサクラの名所となっていますが、道を歩きながら、目の前から遠くの背景まで、あるいは、頭の上から、見下ろした濠端まで刻々と変化するサクラの景観は他に類を見ないものであり、また、明治以来のソメイヨシノを主体としたサクラの名所としてこの地域の伝統を引き継ぐものと言えます。

一方で、周囲の景観の変化、サクラの樹勢維持などの問題もあります。

〔千鳥ヶ淵周辺で見られる特徴的な景観〕



利用(公園緑地、行楽地としての利用)

千鳥ヶ淵周辺は、江戸時代から景勝地として知られていましたが、明治時代に九段坂周辺が行楽地として賑わい、サクラの名所としても多くの人を訪れるようになりました。

戦後には、北の丸公園、千鳥ヶ淵緑道が整備され、日本武道館、科学技術館の開館などにより、都心の憩いの場として定着していきました。

また、周辺地域とともに首都圏有数のサクラの名所となっていますが、サクラの時期以外の幅の広い利用が今後の課題となっています。

〔様々な利用の様子〕



3. 目指す姿と道筋

基本的な目標像

我が国の象徴としての皇居の森と一体化した森と水といきものの空間

象徴性、歴史性が継承され、見て、識ることのできる場所

サクラなど時代時代の景観、利用と象徴性、歴史性との共存

皇居外では、日本の象徴としての皇居一帯の美観、雰囲気を保つことが非常に重要です。近年、皇居の森の自然の豊かさが評価されるようになり、そのことが皇居の持つ象徴性の一つととらえられるようになってきました。

千鳥ヶ淵周辺は、皇居の森と隣り合っていますが、この場所の自然が、皇居の森と一体となり、支え合う存在となることは、皇居の象徴性を保つことになると考えます。

また、千鳥ヶ淵周辺は、他にも、歴史、文化など様々な魅力を持っていますが、サクラの名所としての存在感の大きさに対して、他の面の知名度が低い部分があります。

そこで、多くの人にこの場所の魅力を知ってもらえるようにすることも重要です。

サクラについては、景観的にも優れ、名所として定着していることから、サクラを良い状態で維持することは重要な目標です。同時に、サクラに対する考え方は、時とともに変わりうるものなので、その時代、その時代でサクラのあり方について考えていくことが重要です。



皇居の森

現在の皇居には、豊かで多様な自然環境が広がっている。中でも吹上御苑の森は、江戸時代以降に庭園樹として植栽された木に、本来この地に自生する樹木が加わって豊かな樹林地に被われている。

皇居の森の一部では、多様な生物相に恵まれた、関東平野に本来あったものに近い自然環境の状態を見ることができると考えられている。

目指す姿と実現の道筋

<水質>

皇居外苑濠の水質については、これまで、アオコの大量発生を防止することを目的に対策を行っており、今後もそれを目標としています。

現在、環境省と東京都は連携して濠の水質改善に取り組んでおり、新しい濠水浄化施設の運用と、東京都の下水道からの雨天時の越流は防止によって徐々にアオコの大量発生は解消される見込みです。

一方で、その後も濠の水質の安定化や水環境の再生のため、追加的な取組が必要となると考えられます。

このため、環境省では、濠の一時的な水抜きなどによる濠底にたまった泥の対策、雨水や湧水を活用した周辺からの水の供給、水生植物による自然浄化などの中長期的な対策に取り組んでいく予定です。

<生物>

目標像

「皇居の森」と一体的となり、皇居の森と支え合う存在、周囲に生き物を広げていく源となっていることを目指します。

“アオバズクの棲む森、オオタカの棲む森”

牛ヶ淵だけでなく、千鳥ヶ淵、北の丸の池に、水生植物、昆虫、魚類、水鳥などの多様な生き物が棲んでいることを目指します。

“オシドリやホタル、トンボの棲む水辺”

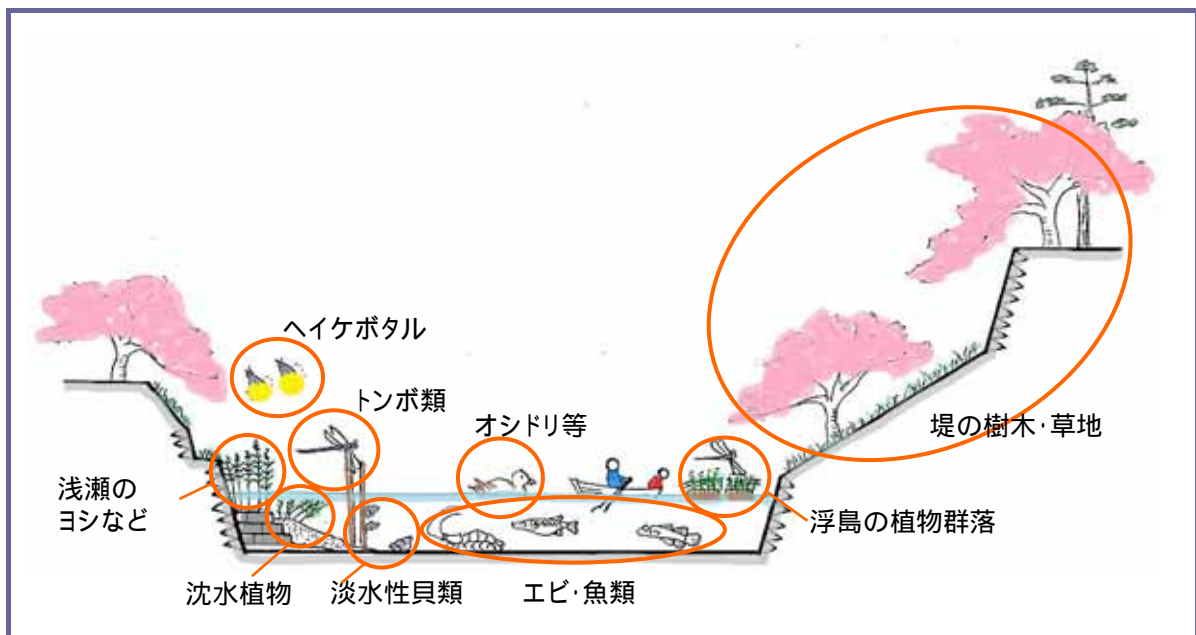
石垣などの歴史的な遺産とともに守られてきたホタル、ヒカリゴケ等の貴重な種が、それら棲んでいる歴史的な環境とともに保全されることを目指します。

この環境再生では、様々な生物が一緒になって棲んでいることが重要ですが、そういった目指している環境になっているかがわかるシンボルとして次の様な生き物があげられます。

(水域)・トンボ類　・ヘイケボタル　・沈水植物　・オシドリ

(陸域)・ヒカリゴケ　・アオバズク　・オオタカ

沈水植物とは、エビモ、ツツイトモといった葉や茎全体を水中に沈めて生活し、ヒマワリなどのように花をつける植物。水質悪化や開発のために絶滅のおそれがある種類も多い。適切な管理を行うことで水質の浄化にも役立つと言われる。



〔千鳥ヶ淵の生物環境再生のイメージ〕

実現のための道筋

牛ヶ淵には、ヘイケボタルなどの多様な生物が棲む環境となっているため、この環境を保護、改善します。千鳥ヶ淵や北の丸公園内池などでも、環境を改善し、多様な生物が棲むことができようになります。

このため外来生物の駆除などに取り組むとともに、石垣等の史跡に影響を与えない範囲で浅瀬の造成などを行って、生物の棲む環境を改善します。

北の丸公園等で皇居の森のような樹林に導く管理を行うとともに、代官町通り土手や濠の堤の草地など様々な環境を維持、創造します。

ヒカリゴケが石垣とともに、良好に保全できる方法を検討し、実行します。

< 景観(サクラを含む) >

目標像

皇居の森と一体となり、常緑広葉樹の林、雑木林、明るく開けた草地など多様な環境が、生物とともに見ることができる景観を目指します。

江戸城の濠や門、近代の近衛師団本部跡など様々な時代の歴史が共存し、周辺の植栽や設置物も歴史的景観に配慮された景観になっていることを目指します。千鳥ヶ淵のソメイヨシノが良い状態で維持・継承され、現在の変化に富んだサクラの景観が維持、改善されることを目指します。

サクラ以外にも、季節感のある植栽が行われ、国民公園にふさわしい景観が形作られることを目指します。

戦後の急速な都市建設の中で、景観に影響を与えてきた道路、建物などが、千鳥ヶ淵周辺の景観に配慮したものに改善されていることを目指します。

実現のための道筋

生物環境の再生により、皇居の森と一体となった景観づくりを進めます。

濠や石垣、近代以降の遺構も含め、史跡を適切に保存します。

生物環境の再生、歴史的景観の保全にとって好ましい植物の植栽、好ましくない植物の伐採、移植等を進めるとともに、歴史的景観や主な展望地の見晴らしを維持するための植物の管理を行います。

サクラの優れた景観を守るため、過密に植栽されている状態を改善するなどして、個々のサクラの樹勢を維持、改善していきます。また、サクラ以外の四季折々の緑地景観もつくります。(以下の図を参照)

代官町通り土手では、現在の野趣に富んだ雰囲気大切に、明るく開けた景観づくりをすすめます。

周辺地域の建物、道路について、東京都、千代田区などと協力して対応していきます。



〔サクラ健全化のための樹木密度調節方法のイメージ〕

< 利用 >

目標像

千鳥ヶ淵周辺が、皇居と一体となった自然、積み重ねられた歴史性が引き継がれている場所となることを目指します。また、サクラや様々な季節の植物を楽しむことのできる場所となっていることを目指します。

以上のような千鳥ヶ淵周辺の魅力が内外の多くの人に知られていて、何度もこの場を訪れ、体験し、理解を深めることのできる場所となっていることを目指します（フィールドミュージアムの形成）。

サクラの時期だけではなく、四季を通じて多くの人々が訪れ、環境教育などの時代、社会に合った利用が行われている場所となっていることを目指します。

実現のための道筋

千鳥ヶ淵周辺の魅力を多くの人に知ってもらい、興味に沿った利用を四季折々にできるようにするため、この場所の魅力の情報発信、歩道、標識などの利用のための施設の改修、ガイドツアーや環境教育などを行うための情報やプログラムの整備、人材育成の支援などを行います。

また、現在、既に千鳥ヶ淵をほぼ周回できる歩道があり、千鳥ヶ淵周辺の魅力が詰まったコースといえますが、散策コースとしてあまり知られていません。この周回コースを利用の推進のモデルコースとし、情報発信や歩道、標識の改修等を進めます。



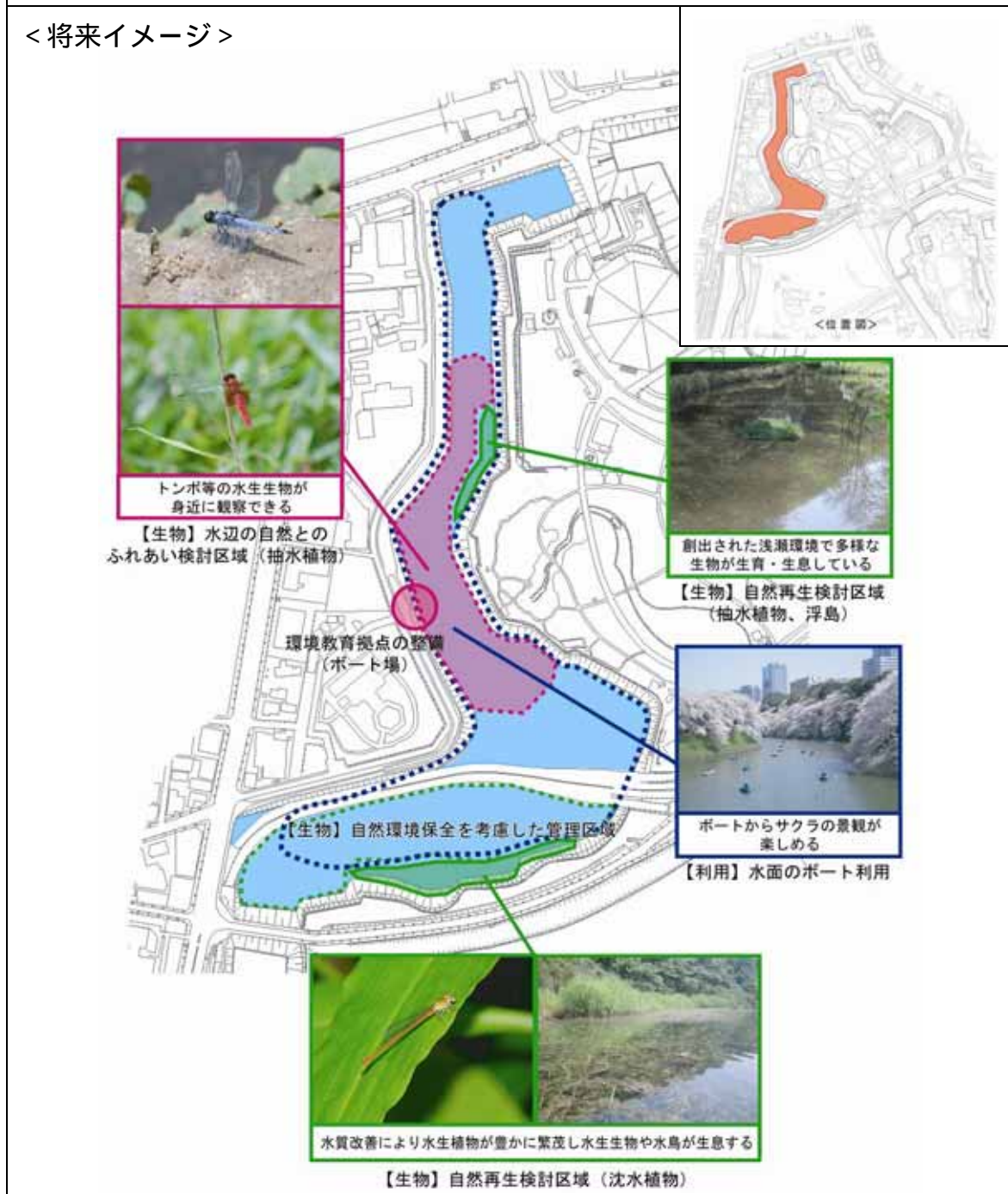
〔ガイドツアーによる利用イメージ〕

目指す姿(区域編)

千鳥ヶ淵(濠内)

- ・水質が改善され、首都高速南側を中心に、エビモ、ツツイトモなどの水生植物が豊かに育ち、創出された浅瀬では、トンボ、ホタルなど様々な水生生物やオシドリなどの水鳥が見られる場となっている。
- ・一方で、首都高速の北側では、従来のボート場の利用が続けられ、ボートからはサクラの季節にはソメイヨシノの景観を楽しむことができる。ボート場の近くでは、濠の生物について身近に観察できる場所ができている。

<将来イメージ>



千鳥ヶ淵南側(代官町通り沿い堤塘)

- ・北の丸公園、牛ヶ淵とともに皇居の森との一体性が重んじられる場所。
- ・千鳥ヶ淵の首都高速南側の水面から代官町通りの土手にかけて、様々な生物の棲む環境が形成され、代官町通りを挟み、生物の往来、景観の一体性が確保されている。
- ・代官町通り沿いの土手については、皇居の森との接点としての様々な生物の棲む場所、移動の場となっており、景観的には野趣に富んだ開けた雰囲気が活かされ、眺望や散策の場としても多くの人に親しまれている。

<将来イメージ>

【景観・利用】野趣に富んだ景観の維持と活用



眺望、散策の場として
利用されている



皇居の森との連続性



皇居の森との接点としての
生物の生息・生育の場、移動の場となっている

【生物】自然環境保全を考慮した管理区域

千鳥ヶ淵西側・東側(千鳥ヶ淵緑道側堤塘・北の丸公園側堤塘)

- ・堤上の緑道からのサクラの景観が主役の場所。すぐそばから濠の向こうまでの緑が折り重なる眺望が形成されている。堤のソメイヨシノは、適度な間隔で配置され、花つきは健全に維持され、史跡としての濠を損ねない状況になっている。
- ・ボート場付近には、身近な自然とのふれあいのできる場が整備され、千鳥ヶ淵周辺に生息・生育するホタル、トンボなどの生き物が観察できる環境教育の拠点となっている(の再掲)

<将来イメージ>

【利用】身近な自然とのふれあいの場

環境教育拠点の創出により
生き物観察が楽しまっている

【景観】サクラの健全な維持管理

近景・中景・遠景の緑が
折り重なる眺望が楽しめる

サクラは適度な間隔が
保たれている

牛ヶ淵

- ・ヘイケボタル、トンボ類、水生植物、水鳥など様々な生き物が安定して棲むことのできる環境となっている。
- ・ヘイケボタルについては、すみかが確保され、夜間の光環境も配慮され、安定的な生息数を維持している。

< 将来イメージ >



北の丸公園

- ・北の丸公園をつくった当時のデザインが尊重されながらも、皇居内に見られるような常緑広葉樹林、雑木林、明るい草地などの多様な緑地が広がり、豊かな生物のすみかとなり、皇居の森との一体性が感じられる場所となっている。
- ・田安門、清水門、近衛連隊の遺構等、歴史的な遺構、景観が保全、継承されている。
- ・公園内の池については、護岸等が生物が棲みやすい環境になっており、ホタルなどの様々な生物の棲む環境、身近に自然を観察できる場となっている。

<将来イメージ>

【景観・利用】歴史的遺構、景観が保全・継承

田安門

清水門

東京国立西洋美術館工芸館

日本武道館

北の丸公園

科学技術館

図内の池を改修し、ホタル等の生物の生息・生育環境とする

【生物】自然再生検討区域（ホタル、護岸創出）

過密な植栽地では剪定や除間伐により樹林間隔を確保

【景観】明るい植栽地の創出

千鳥ヶ淵周辺の情報マップ

凡例

- 深、水面
- 樹林
- 草地
- サクラ
- 市街地
- 近世の現存する歴史的資源
- 近代の現存する歴史的資源
- 現代の現存する歴史的資源
- 案内板など

0 50 100 200m

① 通り抜け型のサクラ並木が深に沿って屈曲し、区間によって景観が変化する。サクラがパノラマ状に幅広く広がる。

② 展望台からは深の水と対岸のサクラがパノラマ状に幅広く広がる。

③ 堤塘上や背景の樹木によってビル群等から遮られる。

④ 土手は野趣に富んだ雰囲気を持ち、四季の変化が感じられる。

⑤ 深の水面を俯瞰し、奥行きのある深の景観が遠望できる。

⑥ 屈曲した深の形状によって、近景・中景・遠景が重なり合う奥行き感のある景観が得られる。

⑦ 水面からは溪谷的な雰囲気を感じられる。

⑧ 堤塘斜面のサクラが水面近くまで枝が下垂し、サクラの花びらが覆う水面を見下ろせる。

⑨ 深の水面や対岸の緑道を俯瞰で望む。

